

令和5年度 瑞穂野北小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標：「人間尊重の教育」を基盤とし、豊かな人間性をもち、自ら学び正しい判断力と実践力を身に付けた、健康でたくましく生きる児童を育成する。
- (2) 具体目標：進んで学ぶ子・はげましあう子・たくましい子くかしこく・やさしく・たくましく>
- (3) 育みたい資質・能力：「問題解決力」「表現力」「チャレンジする力」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

誰もが安心感の中で成長し、主体的に学び活力あふれる学校づくり

- ・ 目指す学校像：「子供たちが安心感の中で成長する学校」「学びの面白さを実感できる学校」「教職員が学び続ける学校」「地域とともにある学校」
- ・ 目指す教師像：「児童に一人一人に向き合い、信頼される教職員」「互いに学び合い、自己研鑽に努める教職員」「互いに応え合い、チームとして動く教職員」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 安心と成長の場となる学校をつくる
 - ・ 温かい人間関係の下、児童一人一人のよさと可能性を生かし、行きがい・居がいのある学校づくりに努める。
 - ・ いじめの未然防止や早期発見・早期対応、教育相談体制の整備、不登校への対応など、児童指導上の諸課題への対応のための組織的な支援体制を整え、支援にあたる。
- (2) 成長し続けるための基盤を培う
 - ・ 児童の資質・能力の育成のために、教材やＩＣＴ等を効果的に活用しながら、分かる授業、知的好奇心を喚起する授業、主体的に学び合う授業づくりに努める。
 - ・ 認め・褒め・励ます指導により、自信や自己有用感の向上を図るとともに、道德教育の充実を図り、困難に負けない強さと他への思いやりの心を育てる。
 - ・ 運動を通して体力の向上を図るとともに、心身ともに健康に生活できる習慣の定着及び危機回避能力の育成に努める。
- (3) 未来を生き抜く力を養う
 - ・ １人１台端末の活用を通して、情報活用能力の定着を図るとともに、よりよい情報の使い手を目指すデジタルシティズンシップ教育を推進する。
 - ・ ＡＬＴを活用し、英語によるやり取りを中心とした授業づくりに努め、児童のコミュニケーション能力を育成する。
 - ・ 人権、平和、環境、少子高齢化等の現代的な諸課題と向き合い、解決を図ろうとする活動を通して、持続可能な社会づくりに向けた意識の涵養に努める。
- (4) 多様な児童の状況に応じた指導・支援を行う
 - ・ 一人一人の教育的ニーズに対応するために、多様な学びの場を提供できるようにするとともに、教職員の指導力の向上を図る。
 - ・ 関係職員が情報を共有するとともに、家庭や地域、諸機関と連携し、いじめや不登校対策を強化する。
- (5) 信頼される教職員を育て、学校チーム力を高める。
 - ・ 新たな教育課題に積極的に取り組み自己研鑽に努めるとともに、互いに学び合い、応え合い、高め合える学校組織をつくる。
 - ・ デジタル機器を活用しながら業務の効率化を進め、児童と向き合う時間を確保し、心身ともに健康な状態で職務を遂行することができるよう、勤務時間を意識した働き方を推進する。
- (6) 地域とともにある学校づくりを進める
 - 体験活動や交流活動を通して地域を愛する心を育てるとともに、社会に参画する意識と協働する態度を育てる。
 - ・ 家庭や地域と本校の目指す児童像を共有し、協働しながら健全な児童の育成に努める。
- (7) 新しい時代にふさわしい教育環境を整える
 - ・ 多様化する社会的ニーズにも配慮された学校施設で、児童をはじめ利用者が安全・快適に過ごせる教育環境に努める。
 - ・ １人１台端末の活用や校務のデジタル化の推進に向けた環境整備に努める。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で、生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育～言語能力を身に付け、他者と関わり合いながら、たくましく成長する児童・生徒の育成～

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ・ 知・徳・体の調和のとれた児童の発達を目指すため、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の相互の学びの関連を図りながら、児童の実態と特性を十分配慮し、心身共に健全な育成を図れるような編成を行う。
- ・ 地域学校園教育ビジョンである「生きる力（確かな学力・健やかな体・豊かな人間性・社会性）」を育む教育課程となるよう、9年間の学びの連続性を考慮した編成を行う。
- ・ 保護者や地域住民の願いを踏まえ、本校の教育の目指すところを共有し、地域の教育力が生きる編成を行う。

(2) 留意点

- ・ 昨年度の各種調査等の結果を踏まえ、知・徳・体の課題を明確にして指導の重点化を図る。
- ・ 児童の資質・能力を育成するための学習指導の充実を図る。（主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、宇都宮モデルの推進、ICTの効果的な活動、少人数指導や習熟度別学習、互いに高め合える集団づくり など）
- ・ 教科横断的な視点を持ち、各教科の学習内容に関連する道徳科・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動の実施内容や時期を考慮する。
- ・ 「宮っ子心の教育」の充実と、「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を図る。
- ・ 認め励ます教育とたくましさの涵養を図る教育を推進する。
- ・ 地域の教育資源を把握し、教育活動の中に積極的に取り入れる。
- ・ 地域学校園児童生徒の課題から、今後育てていきたい力を明確にし、共通実践等を取り入れる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

育みたい資質・能力：「問題解決力」「表現力」「チャレンジする力」

○ 小規模校の特色や地域の教育資源を生かした教育活動、小中が連携した継続的な教育活動により、地域と共にある学校づくりを推進する。

- ・ 業務の内容の見直しやデジタル機器を活用することで業務の効率化を図り、児童とともに過ごす時間を大切にするとともに、教職員がもてる力を有効に発揮し、協働する学校づくりに努める。
- ・ 学校課題：主体的に学習に取り組み、課題を解決していける児童の育成
～児童の考えを引き出し生かす算数科の授業を通して～
- ・ 教職員自身の本校への所属意識を高め、保護者や地域と共に、チームとして児童に積極的に関わることができる学校づくりに努める。

(2) 学習指導

「児童の知的好奇心を喚起し、主体的に学び合える授業づくりと、学習内容が確実に定着する指導・支援の工夫」

- ・ 「宇都宮モデル」を活用した授業改善を推進する。
- ・ 端末機器を活用した授業を実践し、教科の学びを深める。
- ・ 課題を克服する充実感や達成感を味わわせ、粘り強さや自律心を育む学習活動を工夫する。

(3) 児童生徒指導

「自信をもって活動し、困難に負けないたくましい心をもった児童の育成」

- ・ 児童のよさを見取り、「認め・褒め・励ます」指導を実践する。
- ・ 安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団づくりを目指す。
- ・ 児童同士が協働し、試行錯誤したり失敗を乗り越えたりしながら様々なことに挑戦することができるよう、場の設定や働きかけを工夫する。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

「自ら考え行動し、心身ともに健康で安全な生活を送ることができる児童の育成」

- ・ 運動に親しみ、自己の運動能力の向上を目指そうとする意欲を育てる。
- ・ 自分の成長や健康に関心を持ち、生活習慣や食習慣の改善を図ろうとする態度を育てる。
- ・ 自分たちを取り巻く様々な危険に対する理解を深め、危険を予測・回避する能力を育てる。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※学校独自 ①今年度の学校として重点的に取り組む内容には, ★を付けている。

②黄色:学習指導関係, ピンク:児童指導・健康・安全関係, 水色:学校運営関係

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 授業において, めあての明確化と共有, めあてに即した振り返りの充実を意識して指導にあたる。 ② 発達の段階に応じて, 問題解決の過程において, 学習形態(個別・ペア・グループ・一斉)を工夫したり, 互いの考えを伝え合う場を設定したりする。 ③ 児童の様々な考えやよさをクラス全体に紹介するなどして, 自信をもたせる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 94.6%, 教職員の肯定的回答率は 88.2%で, ともに数値指標を上回った。 ・学校全体で, 児童の考えを引き出し生かす授業に向けて, 発問や学習形態の工夫を図ったことにより, 児童が主体的に学習に取り組めるようになってきた。 【次年度の方針】 ・児童自らが問いをもち, 様々な情報を基にしなが課題解決に向かうことができるよう, 教師のコーディネート力を高め, 授業改善を図る。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 ⇒地域の肯定的割合 85%以上	① 児童一人一人に愛情をもって接し, 自信や自己有用感の向上を図る。 ② 道徳教育の充実を図り, 生命及び人権を尊重する心や, 人を思いやる心を育む。 ③ 児童会活動や縦割り班活動, 地域の方々との交流等を通して, 相手の立場を考えて思いやる心を育む。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 89.9%, 教職員の肯定的回答率は 94.1%, 地域住民の肯定的回答率は 100%で, 全て数値指標を上回った。 ・児童同士のよりよい関係性を構築できるよう, 全教職員による日常の声掛け・称賛などを行ったことや, 新型コロナウイルス感染症対策の解除による様々な活動を通して, 地域ボランティアや異学年交流等の様々な人たちと関わる機会を得て, 思いやりの心が育った。 【次年度の方針】 ・道徳科の授業改善と, 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の更なる充実を図る。 ・児童会活動や縦割り班活動, 地域の方々との交流等の活動の充実をより一層図り, 思いやりの心を育む。
	A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 各教科等の授業や各種検定等において, 児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ② 児童が自分なりの目標を設定し, 活動に見通しをもって取り組むことの大切さに気付くような授業の展開を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 86.8%, 教職員の肯定的回答率は 94.1%で, ともに数値指標を上回った。 ・自分で目標を立てて取り組む機会を設けるとともに, 目標の達成に向けて努力している姿を称賛するなどしたことで, 前向きに取り組もうとする児童が多くなった。 【次年度の方針】 ・児童の思いを尊重しながら, 明確な目標をもつことができるよう働きかけたり, 目標を達成するための手立てを助言したりする。また, 努力の過程を称賛し, 児童とともに達成の喜びを味わえるようにする。

1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康管理できるように、養護教諭と連携しながら、各教科等や学校行事と関連を図った保健指導や日常の指導を行う。 ② 児童が栄養バランスの取れた望ましい食習慣を身に付けることができるように、栄養士と連携しながら、学校給食と各教科等との関連を図った食育指導を行う。 ③ 児童に危機を予測し自らの命を守り抜く判断力と行動力を育成するため、日常における安全指導を意識するとともに、交通安全教室や避難訓練等の内容の改善・充実を図る。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 94.6%, 保護者の肯定的回答率は 95.9%と数値指標を上回ったが、教職員の肯定的回答率は 88.2%と数値指標をやや下回った。 ・全教職員で、児童の健康や安全に関する指導を継続して行っていることにより、児童や保護者の意識が高まっていると考えられる。 【次年度の方針】 ・児童が危機を予測し自らの命を守り抜く判断力と行動力を育成するため、家庭や地域と連携を図りながら、日常における安全指導を充実させるとともに、交通安全教室や避難訓練等の内容を工夫し、計画的に実施する。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 学級活動やキャリアパスポート等を活用し、自分のよさや成長に目を向けるような機会を設ける。 ② 帰りの会等において、友達のよさを紹介する機会を設ける。 ③ 友達のため、学級のため、学校のためなど、他者のことを考えて行動している児童を教職員間で共有し、称賛の声掛け等を行う。 ④ 児童のよさや成長を見取り、「北っ子賞」を与え、自己有用感を高める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 87.6%, 教職員の肯定的回答率は 94.1%と、ともに数値指標を上回った。 ・教職員間で児童のよさや成長の様子を頻繁に共有し、一人一人の児童に温かい言葉掛けを行ったことが、児童の自己肯定感を高めることに繋がったと考えられる。 【次年度の方針】 ・協働的な活動を取り入れた学習の展開を図るとともに、学級や学校など、社会に貢献することの大切さと達成感を味わうことができるよう、キャリア教育の充実を図る。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 児童が、英語を使って自分の気持ちや考えを適切に伝えることができるよう、教員自身が積極的に英語を使うようにする。 ② A L T を活用し、英語に触れる機会の充実を図り、言語や文化について体験的に理解を深められるようにする。 ③ 外国語活動に関する校内研修を実施する。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 85.3%, 教職員の肯定的回答率は 88.2%で、ともに数値指標を下回った。 ・外国語の授業では活発に活動している児童がほとんどだが、英語を使って積極的に自分の考えを伝えようとすることには課題が見られる。 【次年度の方針】 ・今後も A L T を活用し、英語に触れる機会を充実させるとともに、目的・場面・状況を設定し、授業を行う。積極的に英語を使って他者とコミュニケーションを図るモデルを教師自身が示すよう努める。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間、校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が郷土への愛情と誇りをもてるよう指導の充実を図る。 ② 教師自身が地域の教育資源や資料等について理解を深められるよう、校内研修等を行う。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 87.6%で、数値指標を上回った。 ・校外学習や出前授業等に加え、宇都宮や地域の特徴等について、教職員が機を捉えて児童に話題提供をしたことにより、児童の関心が高まった。 【次年度の方針】 ・引き続き、校外学習等で宇都宮の良さに直接触れる機会を設けるとともに、教科等との関連を意識しながら指導の充実を図る。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上	① GIGA構想に伴い、一人一台端末 を文具の一つとして、授業はもとより 日常的に活用できるようにする。 ② ICT支援員を活用したり校内 研修を行ったりすることにより、 デジタル機器の学習への活用につ いて、教職員の実践力を高める。 ③ 司書と連携しながら、授業にお ける図書利用の推進を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は94.6%、職員の肯定的回答率は100%、保護者の肯定的回答率は89.0%で、全て数値指標を上回った。 ・発達の段階に応じて、授業でタブレットを活用する場面を適宜設けたり、調べ学習で図書室の本の活用を図ったりしたことにより、児童のスキルが高まった。 【次年度の方針】 ・授業におけるICTの効果的な活用に関して、相互授業参観や校内研修等の充実を図る。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 各教科等の授業において、SDGsに関わる事項について触れたり紹介したりするよう努める。 ② 委員会活動において、SDGsに関わる内容を扱う。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は86.8%と数値指標を上回ったが、教職員の肯定的回答率は82.4%で、数値指標を下回った。 ・各教科等や委員会活動において、SDGsに関する内容について学習する機会を設けたことで、児童の関心が高まった。 【次年度の方針】 ・教職員自身が身の回りのSDGsに関する事柄について共有し見識を深めたり、児童と教職員が共に自分達の生活をSDGsの視点で考えたりすることができるよう、教室にSDGsの掲示物等を貼るなど、日常的に関連付けて考える機会を設ける。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	○① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全職員で、特別な支援を必要とする児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ○② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の指導計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。 ③ 特別支援教育に関する取組の情報を積極的に発信する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は94.1%で、数値指標を上回った。 ・特別な支援が必要な児童について、全教職員で共通理解を図り、個に応じた具体的な支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ・今後も特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全教職員が連携し、迅速かつ組織的な対応に努める。

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 90%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	○① 学級活動や道徳科の授業や、児童会の「いじめゼロ集会」の実施など、教育活動全体を通していじめを許さない指導の徹底に努める。 ○② 年4回実施する学校生活アンケートや、年2回行う教育相談（おしゃべりタイム）を通して、児童の心の様子を捉え、学校いじめ防止基本方針に基づきながら組織的な対応を行い、早期発見、早期対応を図る。 ③ ホームページや学校だより、学年だより等で、学校の取組の様子を発信する。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は96.1%、保護者の肯定的回答率は85.5%で、ともに数値指標を上回った。 - 日常から児童の見取りや情報収集に努め、支援に当たるとともに、学校生活アンケートやおしゃべりタイム等の機会を有効に活用し、組織的に対応したことにより、いじめの未然防止に繋がったと考えられる。 【次年度の方針】 - 児童指導情報交換会を計画的に実施し、全教職員で児童の様子を見取って情報を共有したり、家庭との連携を密に図って児童の小さな心の変容を把握したりしながら、きめ細かな指導・支援に当たる。 - いじめゼロ集会の実施に合わせて、道徳科において、いじめについての教材を扱い、道徳教育の更なる充実を図る。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 90%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	① 児童の自己肯定感を高めるよう、児童が互いに認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導・支援を積極的に行う。 ② 教育相談、学校生活アンケート、Q-U調査の結果を活用し、不適応傾向にある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報の共有を図る。 ③ ホームページや学校だより、学年だより等で、学校の取組の様子を発信する。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は98.4%、保護者の肯定的回答率は89.7%で、ともに数値指標を上回った。 - 教育相談や学校生活アンケートを活用したり、不登校対策委員会で不登校を生まない対応について検討したりと、児童一人一人に寄り添う支援を行った。 【次年度の方針】 - 引き続き、全教職員で児童を認め励まし、児童の自己肯定感を高められるよう努めるとともに、保護者や地域との連携を図る。 - 児童の保健室や図書室の利用状況を職員間で共有し、不登校予備軍となっている児童への早期的な支援を行う。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →教職員の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	① 目標に向かって主体的に取り組めるように、具体的な方策を考え、学び合う活動を通して、集団の中での自己有用感を味わわせるとともに、一人一人の頑張りを見取り認め励ますことにより、学びに向かう集団づくりに努める。 ② 児童の願いや思いを生かした学校行事を計画したり、縦割り班活動の場を設定したりして、児童が意欲的に参加できるようにする。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は97.7%、教職員の肯定的回答率は94.1%、保護者の肯定的回答率は89.9%で、全て数値指標を上回った。 - 学校生活全般において、児童の活躍の機会を多く設けたり、児童自らが考えて行動することができるよう支援したりしたことにより、児童の学校生活への期待と意欲が高まった。 【次年度の方針】 - 児童がより主体的に活動したり挑戦したりする場を設定するとともに、全教職員で児童を見守り適宜支援する。

4－(1) 教職員の資 質・能力の 向上	★A14 教職員は、分かる授 業や児童にきめ細かな指 導を行い、学力向上を図 っている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	① 学習課題や解決への見通しをも たせ、課題解決にじっくり取り組め るよう、発問や学習課題を工夫す る。また、授業の終末には、身に付 けた内容を整理し本時の学びを振 り返ることができる時間を設ける。 ② 担任とかがやきルームや学力向 上担当者との連携を図り、一人一 人に対応した指導に努める。 ③ 日々の授業や習熟度別での学 習、かがやきルーム、チャレンジタ イムの様子等を、学年だよりやホ ームページで公開して、積極的に 発信する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は99.2%、保護者の肯定的回答率は91.3%で、ともに数値指標を上回った。 ・学校全体で、児童の考えを引き出し生かす授業の工夫を図ったことにより、児童が主体的に学習に取り組み、自分で課題を解決しようとする姿が多く見られるようになった。 ・担任とかがやきルームや学力向上担当者が連携を図ることにより、個に応じたきめ細かな指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・教科等横断的な視点や単元全体の見通しをもち、児童に付けさせたい力を明確にして、学習者主体の授業へと転換を図る。
4－(2) チーム力の 向上	★A15 学校に関わる職員全 員がチームとなり、協力 して業務に取り組んでい る。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 児童への関わりや、学校の諸課題 への対応、学校行事の準備・運営等 に、全職員が一丸となって取り組む。 ② 教職員の協働性を高めることに視 点を置き、教職員の得意分野や持ち 味が生きる組織運営を行う。 ③ 困難を感じる業務について気軽に 相談し、助け合える雰囲気をつくら せる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は88.2%で、数値指標を上回った。 ・校長のリーダーシップの下、本校として育みたい資質・能力（問題解決力・表現力・チャレンジする力）を共有するとともに、互いに声を掛け合ったり助言し合ったりしながら新たなアイデア等を出して改善を図るなど、諸教育活動の充実に向けて、全教職員が協力して取り組んだ。 【次年度の方針】 ・本校の目指す児童像をより明確かつ具体的に共有し、児童の指導・支援に当たるとともに、教職員の協働の場を設け、コミュニケーションの充実を図る。
4－(3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 児童と関わる時間の確保と教材 研究の充実を図るため、学校の働 き方改革の視点に立って、教職員 一人一人が勤務時間を意識し、業 務の効率的な実施や計画的な処理 に努める。 ② 持続可能な学校運営を目指し、目 的を明確にした上で、各種行事等 の実施計画等の改善・精選を図る。 ③ 学習情報システムをはじめとし た各種システムを効果的に活用 し、業務の効率化を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は94.1%で、数値指標を上回った。 ・働き方改革の視点に立ち、教職員それぞれが計画的に担当業務を進めたり、声を掛け合いながら協力して業務に当たったりしたため、業務の効率化が図られた。 【次年度の方針】 ・取組の充実と業務量のバランスの観点から、学校全体に関することや新たな行事等についてはチームで業務に当たるようにし、教職員一人一人が時間を有効活用できるようにする。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の実施	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 →5・6年児童の肯定的割合 85%以上	① 「瑞穂野地域学校園ビジョン」に基づき、「生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）を育てる取組を重点とし、小中間で積極的に情報交換を行いながら、小中一貫教育を推進する。 ○② 乗り入れ授業や6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にした上で工夫して実施する。 ③ 小中共通のあいさつ運動週間を設定するなど、間接的な交流も含めた小中共同の取組を工夫する。	B 【達成状況】 ・5・6年児童の肯定的回答率は95.1%で、数値指標を上回った。 ・小中一貫の取組として、乗り入れ授業、あいさつ運動、統一お弁当の日、進学先中学校訪問等を実施したことにより、児童が参加する場が増え、児童の意識が高まったと考えられる。 【次年度の方針】 ・小中一貫の目的や活動について、保護者や地域に分かりやすく発信するとともに、瑞穂野地域の4校がより連携を密にして、全ての学年において活動を充実させるよう努める。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 →保護者の肯定的割合 85%以上 →地域の肯定的割合 85%以上	○① 地域のボランティアの方々と交流の機会を設定し、体験を通して望ましい人間関係を構築できるようにする。 ② 校外での活動時の安全確保や、授業における支援など、様々な活動において学校支援ボランティアを活用する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答率は89.9%、地域住民の肯定的回答率は100%で、ともに数値指標を上回った。 ・親子健康教室や保護者参加型の避難訓練、学校支援ボランティアによる学習支援や環境整備等を実施したことにより、保護者や地域の方々が学校の様子に触れる機会が増え、関心がより高まっていると考えられる。 【次年度の方針】 ・保護者や地域と連携を図って教育活動を行えるよう、引き続き情報の発信を工夫するとともに、保護者や地域の方々の声に耳を傾けながら地域とともにある学校づくりに努める。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上 →地域の肯定的割合 85%以上	① 毎月、チェック項目に基づく安全点検を全教職員で実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事・地震・竜巻・洪水・不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は94.1%、保護者の肯定的回答率は90.3%、地域住民の肯定的回答率は100%で、全て数値指標を上回った。 ・毎月の安全点検と日頃の巡視、危険箇所の迅速な修繕、児童へのアナウンス等を行い、安全確保ができた。また、保護者参加型の避難訓練を実施し、危機意識を高めることに繋がった。 【次年度の方針】 ・引き続き、全教職員が日々の安全確認を行うとともに、不測の事態に備えられるよう、様々な状況に応じた避難訓練を実施したり、保護者や地域と連携して児童の安全を守ることが出来る環境整備に努めたりする。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 80%以上	① 情報教育主任を中心として、授業におけるタブレットの活用について共通理解を図る。 ② ICT支援員を活用し、環境整備を行うとともに、積極的・計画的に授業支援を依頼する。 ③ ICT使用上の留意点や危機対応について、校内研修等を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は94.1%で、数値指標を上回った。 ・ICT活用に関する校内研修を実施して教職員自身のスキルアップを図ったり、ICT機器と図書を併用して活用するよう児童に働きかけたりできた。 【次年度の方針】 ・引き続き教職員自身のスキルアップに努めるとともに、授業においてICT支援員を積極的に活用する。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等 (市共通)	★B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上 →地域の肯定的割合 85%以上	○① 地域学校園内で情報を共有しながら、代表委員が主体となって「あいさつ運動」を実施し、気持ちのよいあいさつに対する意識を高める。 ○② 自ら進んであいさつすることや、時と場にふさわしい言葉遣いについて、教職員が適宜声掛けや指導を行うとともに、家庭にも協力を依頼する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は96.1%、保護者の肯定的回答率は86.3%、地域住民の肯定的回答率は100%で、全て数値指標を上回ったが、児童と保護者の数値に乖離が見られる。 - 小中連携あいさつ運動や校内あいさつ週間の実施により、礼儀正しいあいさつについて意識する児童は増えたが、自分から進んで明るく元気にあいさつすることに課題があると考えられる。 【次年度の方針】 - コミュニケーションの基本となる返事を徹底し、あいさつの習慣化を図る。 - 児童も大人も気持ちのよいあいさつや言葉遣いができるよう、保護者や地域と連携を図りながら、日頃の声掛けを行う。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上 →地域の肯定的割合 85%以上	① 「瑞北小の一日」を基に、きまりやマナーの意味や大切さについて、全職員が同一步調で指導にあたる。 ○② きまりやマナーを守って行動している姿を、児童が相互に認め合う場や教職員が称賛する機会を数多く設け、意識付けを図る。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は96.1%、保護者の肯定的回答率は95.8%、地域住民の肯定的回答率は100%で、全て数値指標を上回った。 - 全教職員が児童の様子を共有し、学校生活や家庭生活の基本的な生活習慣について声掛けや支援を行ったことが、児童の意識の高まりにつながったと考えられる。 【次年度の方針】 - 児童自らがきまりやマナーの意義を理解し、それらを守って行動できるよう、学級活動や児童会活動において、児童自身に考える機会を与える。
本校の特色・課題等	B3 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上	① 体育科の授業や特別活動等を通して、様々な種類の運動の面白さを味わえるよう、指導方法を工夫する。 ② 児童が使える道具の置き場や借り方を明確にするなど環境を整備し、自主的な運動を促す。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は86.0%で、数値指標を上回った。 - 体育の授業の工夫に加え、ロング昼休みの学級や縦割り班での外遊びを推奨したことにより、児童の運動に対する意識が高まった。 【次年度の方針】 - 引き続き、児童の運動の機会を確保するため、業間や昼休みの外遊びを推奨するとともに、学校支援ボランティアの活用を推進し、進んで運動する意識を高めるよう働きかける。 - 低学年用の逆上がり練習器、ストラックアウトなどの道具の充実を計画的に行う。

★B4 学校は、児童同士が協働する活動の場を設定している。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	① 縦割り班活動や異学年交流の場を設定し、望ましい人間関係の育成を図る。 ② 縦割り班活動や異学年交流の際、内容や安全面等について児童が自分たちで考えて活動できるよう支援する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は98.4%、保護者の肯定的回答率は94.3%で、ともに数値指標を上回った。 - 縦割り班活動（清掃、交流、読み聞かせ等）や合同授業を実施したことにより、全校生で触れ合う機会が増え、児童の心の成長に繋がった。 【次年度の方針】 - 引き続き、縦割り班活動や異学年交流の場を設定するとともに、他者との関わりの中で自己有用感をもてるような活動の充実を図る。
★B5 児童は、失敗を恐れずに様々なことに挑戦している。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →教職員の肯定的割合 85%以上	① 児童が夢中になるような遊びや活動を取り入れ、様々なことに挑戦しようとする場をつくる。 ② 児童が様々なことに挑戦することができるような機会を与え、様子を見守り、適宜助言したり励ましたりする。 ③ 各種たよりや懇談等を通して、学校の取組の様子を発信したり、保護者に協力を依頼したりする。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は91.5%、教職員の肯定的回答率は94.1%で、ともに数値指標を上回った。 - 普段の学校生活において、教職員が児童の活動を見守り、必要に応じて助言する姿勢で関わるようにしたため、児童自らが挑戦する機会が増えた。 【次年度の方針】 - より一層保護者と連携を図りながら、児童のがんばりや成長を認め励ますよう努める。 - 楽しみながらチャレンジできる場の設定や、児童の意見や考えが反映される活動を児童会活動等で計画し、実施する。
★B6 児童は、協働的な学びにより様々な方法で解決を図ろうとしている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →教職員の肯定的割合 85%以上	① 友達の考えと自分の考えを比較したり、選択・統合したりすることにより学びを深めることができるようにする。 ② 正解だけではなく、納得解や最適解を求め続けていく過程を大切に授業を工夫する。	A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は94.6%、教職員の肯定的回答率は88.2%で、ともに数値指標を上回った。 - 校内研修等において目指す児童の具体的な姿を話し合い、授業改善に取り組んだことで、児童の考えを生かす授業展開を工夫することができた。 【次年度の方針】 - 学習者主体の視点から、学ぶことに興味・関心をもち、児童自身が見通しをもって課題解決を図ることができるような授業へと転換を図る。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【教育全体の状況について】

- ・全26項目中、23項目について数値指標を達成できた。
 - ・児童に関することで特に良好な評価が得られている項目は、A2「児童は、思いやりの心をもっている」、A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」、B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」、B2「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」、B5「児童は、初めてのことや苦手なことにも、失敗を恐れずに挑戦している」であった。
 - ・学校全体に関することで特に良好な結果が得られている項目は、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」、A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」、A20「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができていた」であった。
 - ・教職員に関することで特に良好な評価が得られている項目は、A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」、A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」であった。
 - ・学習に関する項目の児童の肯定的回答率は、A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる」が94.6%、A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」が94.6%、A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」が99.2%、B6「児童は、友達と考えを伝え合いながら、友達の考え方や新しいやり方にも挑戦して、納得解や最適解を求め続けようとしている」が94.6%と、高い結果となった。またA14については、保護者の肯定的回答率も91.3%と数値指標を上回った。
- 家庭や地域との連携に関する項目（A18）については、保護者の肯定的回答率が89.9%、地域住民の肯定的回答率が100%と、ともに数値指標を上回った。この項目については、児童の肯定的回答率が93.8%、教職員の肯定的回答率が100%と、ともに高い結果となった。

【評価の改善が見られた項目について】

- B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」の項目では、肯定的回答率を昨年度と比較すると、教職員がプラス7.0%、地域住民がプラス8.3%となった。
- ・B3「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」の項目では、肯定的回答率を昨年度と比較すると、児童がプラス5.8%、教職員がプラス12.5%となった。
 - ・保護者の肯定的回答率が昨年度より高まった項目は、A7「児童は、宇都宮の良さを知っている」がプラス5.0%、A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」がプラス8.8%、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」がプラス10.1%、A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」がプラス5.7%であった。
 - ・教職員の肯定的回答率が昨年度より高まった項目は、A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」がプラス7.0%、A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」がプラス6.3%、B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」がプラス7.0%、B3「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」がプラス12.5%であった。

【指標を下回った項目について】

- ・A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」については、児童や保護者の肯定的回答率が数値指標を上回ったものの、教職員の肯定的回答率が数値指標を1.8%下回った。
- ・A6「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている」については、肯定的回答率を数値指標と比較すると、児童がマイナス4.7%、教職員がマイナス1.8%と、ともに下回った。
- ・A9「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている」については、児童の肯定的回答率が数値指標を上回ったものの、教職員の肯定的回答率が数値指標を2.6%下回った。

7 学校関係者評価

- 学習支援ボランティアの活動を予定通り実施できたことに加え、新たなボランティア登録者があったことなどから、地域の方々が子供たちと関わる機会が増え、評価に繋がったと考えられる。今後も、ボランティア活動の活性化が図れるとよい。
- 子供たちは、気持ちのよいあいさつをしてくれる。あいさつ運動については、ぜひ地域にも広く声を掛けてほしい。
 - ・授業参観をした際、子供たちが前向きに学習に取り組んでいる様子が見られた。
 - ・授業参観をした際、先生方が授業の準備をしっかり行い、子供たち一人一人に合わせて丁寧に指導・支援をする様子が見られた。
 - ・「安全に配慮した環境づくり」について、年4回の避難訓練を、毎年工夫しながら実施していることがよいと感じた。
- 「小中一貫の取組」については、詳細について知らない保護者や地域の方々がいると思われるので、発信の仕方を工夫するとよい。
- 登校時、1列に整然と並んで、おしゃべりなどもせずに登校できていることはすばらしい。下校時にも、安全に気を付けて歩けるとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・児童の肯定的回答率で見ると、全体的に高い評価を得た項目が多い。学習面においては、児童の力を引き出したり伸ばしたりするために、校内研修や日々の教材研究を通して教員自身の授業力向上を図ってきたことが、成果に繋がっていると考えられる。また、児童一人一人の進捗状況やつまづき等を把握して適宜助言したり、かがやきルームや学力向上担当者と連携を図って個別の支援（取組）を行ったりしたことも、効果を上げた要因であると思われる。
- ・今年度は、全教職員で「本校として育みたい資質・能力」として「問題解決力」、「表現力」、「チャレンジする力」の3つを常に意識して児童の指導・支援にあたったことが、児童の安心感に繋がったと思われる。今後も、活動の目的を明確にした上で、学習面・生活面において全教職員一丸となって児童一人一人の力を伸ばす指導・支援に努める。
- ・結果を全体的に分析すると、「粘り強く取り組むこと」が児童の課題として見えてきた。授業はもとより学校生活全般において、児童が自ら考えて行動したり、思考錯誤しながら経験を積んだりしていくことができるような場を設定する。その際、教職員は見守る姿勢を大切にする。また、教職員は、現在求められている教育に関して情報収集と自己研鑽に努め、特に授業改善に真摯に取り組むようにする。
- 保護者に関しては、児童の肯定的回答率と大きな差が見られる項目があった。いじめ対策や小中一貫の取組等、学校で行っている様々な取組について、保護者に伝わるような発信の仕方を工夫していきたい。また、時と場にふさわしい気持ちのよいあいさつや返事の仕方については、学校と家庭が連携して児童に伝えていくようにする。
- ・教職員の肯定的回答率が市の平均よりやや低い項目も見られるが、学校や児童をよりよくしていこうとする真剣な姿勢の表れであると考えられる。今後も、多くの目で児童の姿を捉えて情報を共有し、様々な意見を踏まえて改善策を練り、実行に移すことができるよう努める。
- 保護者や地域の方々が協力的である強みを生かし、今後も地域の力（ボランティアを含む）のさらなる活用を図りながら、学校・家庭・地域が協働して児童の心身の健全育成に努める。
- ・昨今の状況を鑑みて、児童、教職員、保護者、地域の方々が共に安全に関する意識を高めたり、地域の安全について考えたりできるような機会を設けたい。
- 小中一貫教育については、乗り入れ授業や中学校訪問、小中連携あいさつ運動などを実施したことにより、6年生児童の意識向上に繋がったと考えられる。今後は、地域の一員としての意識を高められるよう、さらに多くの学年での交流活動も取り入れていきたい。また、保護者や地域への発信も工夫したい。